

ハブクラゲ対策に役立つチラシやマニュアルを作りました！

ハブクラゲについてもっと知ろう!!

沖縄県の自然豊かな海には、さまざまな種類の生き物が生息しています。その中には、身を守るために毒を持つ生き物もいます。県内では、毎年100件前後の海のキケン生物による刺咬症被害が報告されています。中でも「ハブクラゲ」による被害は最も多く、全体の4割以上を占めています。

当研究所では、ハブクラゲについてもっと多くの方に知ってもらうために、新しくチラシやマニュアルを作成しました。正しい知識を身につけ、十分な対策をとって安全に海を楽しみましょう！

低年齢向けチラシ「ハブクラゲに気をつけよう！」

県内では1998年から2023年までに、ハブクラゲに刺される被害が2876件発生しています。そのうち、約半数が15歳以下の子どもの被害となっています。特に、10歳未満の子どもは身体も小さく、毒の影響を強く受けてしまうため注意が必要です。

今回、多く子ども達と保護者の皆様にハブクラゲについて知ってもらうため、低年齢向けチラシ「ハブクラゲに気をつけよう！」を作りました(図1)。小学生を対象に配布が始まっていますので、この機会にご家族の皆さまでご覧ください。



図 1. 低年齢向けチラシ



図 2. ハブクラゲ等救急対応シート

ビーチ管理者向け「ハブクラゲ等救急対応シート」

もし、ハブクラゲなどの海のキケン生物に刺されてしまったら、速やかに応急処置をしましょう。

また、刺された人の意識がなくなってしまうと、直ちに心臓マッサージを開始しましょう。

特にビーチで働く方々は、万が一の刺症事故に備え、スタッフ全体で応急処置・救急対応ができるようにしておくことが重要です。当研究所では、ビーチで働く方々の救急対応をサポートするため「ハブクラゲ等救急対応シート」を作りました(図2)。ぜひ、救護所に1枚置いてご活用ください。

「ハブクラゲ侵入防止ネット管理マニュアル」

ハブクラゲ侵入防止ネット(クラゲネット)を設置しているビーチ向けに作成した「ハブクラゲ侵入防止ネット管理マニュアル」も、この度新しくなりました(図3)。クラゲネットの張り方や、管理における注意点、日常点検の方法などをまとめていますので、ぜひ業務のご参考にしてください。また、クラゲネットの内側で泳ぐ場合でも、ラッシュガードなどで肌をできるだけ出さずに泳ぐことで、万が一ハブクラゲに刺されたとしても、被害をより抑えることができます。【衛生科学班】



図 3. ハブクラゲ侵入防止ネット管理マニュアル

今回紹介しました普及啓発物の PDF は、当研究所公式ホームページ「気をつけよう!! 海のキケン生物」からもダウンロードすることができます。 ※ホームページはこちらから→ <https://www.pref.okinawa.jp/kurashikankyo/petgaiju/1018721/1005068/1005069.html>

